

<小学校 教育相談>

望ましい人間関係をはぐくむ支援の在り方

ー構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合を通してー

糸満市立糸満南小学校教諭 古 堅 みさえ

望ましい人間関係をはぐくむために、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援の在り方について研究をすすめてきた。

児童理解をもとに、学級の実態に即した意図的、計画的な支援を実践した。その結果、児童相互のあたたかい心の交流が図られた。さらに、互いのよさの認め合い、人間関係づくりの知識や技能が身に付き、望ましい人間関係がはぐくまれた。

【キーワード】 望ましい人間関係 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合
互いのよさの認め合い 人間関係づくりのスキル

目 次

I テーマ設定の理由	31
II 研究内容	32
1 望ましい人間関係づくり	32
2 予防的・開発的カウンセリング	32
3 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合	33
III 授業実践	35
1 主題名	35
2 主題について	35
3 主題の指導目標	35
4 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した活動計画	36
5 本時の指導計画	36
IV 研究全体の考察	38
1 互いのよさを認め合えたか	38
2 人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付いたか	39
3 望ましい人間関係をはぐくむことができたか	40
V 研究の成果と今後の課題	40
1 研究の成果	40
2 今後の課題	40

＜小学校 教育相談＞

望ましい人間関係をはぐくむ支援の在り方

ー構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合を通してー

糸満市立糸満南小学校教諭 古 堅 みさえ

I テーマ設定の理由

近年、少子化や核家族化、地域社会における人間関係の希薄化など急激な社会環境の変化から、人間関係をうまく築けない児童が増えてきている。家庭や地域の教育力低下が叫ばれる今日、児童が一日の大半を過ごす学校・学級が、人間関係をはぐくむ主な場となっている。平成16年度「本県教育推進計画」の「学校教育の充実」では、他人を思いやる心、自他の生命や人権を尊重する心などの豊かな人間性や社会性の育成を図るため、教育活動全体を通じて心の教育を推進することが述べられている。心の教育推進の方法の1つとして「各学校における教育相談（カウンセリング）活動の活性化を図る」と示されている。

これまでの実践を振り返ってみると、学級の中に、他の児童を中傷したり、自己中心的な言動で周りに不快な気持ちを与えたりと、人とかかわりがうまくとれない児童がいた。学級担任として、このような児童に対して、学級集団の中で活躍する場をつくり互いに助け合い支え合う学級づくりに努めたが、前進には至らなかった。その原因としては、児童一人一人の内面的理解の不足、教育相談の手だてが意図的、計画的に実践できなかったからだと考える。

児童は、目に見えないたくましい自己成長力の芽をもっている。どの児童も現在及び将来における自己実現を願っている。自己実現を図るためには、教師と児童及び児童相互の望ましい人間関係を育て、児童が集団の中で自己を生かすことが条件である。望ましい人間関係をはぐくむことのできる児童とは、互いのよさを認め合いあたたかい人間関係がつけられる子であり、集団の中で、周りの人たちとかかわり合いながら自分らしさを表現できる子ととらえる。

人間関係づくりの手法に、「予防的・開発的カウンセリング」がありその中に、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育がある。前者は、集団活動の中で感情交流を図り、あたたかい人間関係をつくるのに効果的である。後者は、人間関係づくりの知識や具体的な技能を身に付けることができる。本研究では、この2つを統合し望ましい人間関係を図っていく。統合するとは、構成的グループエンカウンターのエクササイズの中に、ソーシャルスキル教育のトレーニングを組み込んでいくことである。それぞれを単独で行うよりも、児童相互の心の交流（感動）と人間関係づくりの技能（スキル）が強く結び付き、定着につながるのである。また、統合の手だては、児童一人一人の望ましい人間関係をはぐくみながら、同時に児童の所属する学級集団を育成することもねらえる。児童は、一日の大半を学級という集団の中で過ごす。その学級を望ましい状態にし、人間関係体験を増やすことによって、効果的に人間関係づくりが図られるものと考ええる。

そこで、学校生活の中で、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を、意図的、計画的に実践することで、児童は互いのよさを認め合い、人間関係づくりの知識や具体的な技能を身に付け、望ましい人間関係をはぐくむことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

学校生活の中で、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を、意図的、計画的に実践することによって、児童は互いのよさを認め合い、人間関係づくりの知識や具体的な技能を身に付け、望ましい人間関係をはぐくむことができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 望ましい人間関係づくり

望ましい人間関係は集団の中で育つ。児童の学校生活での基盤は学級である。その学級集団の中で、互いのかかわり合いを通して、他者を理解し自分を確立していく。つまり学級での人間関係は、児童が自己の存在を実感しながら、自己実現を目指していく大切な場である。そのためには児童一人一人がかげがえのない一人の人間として大切にされ、認められている望ましい人間関係が前提となると考える。

学級内で望ましい人間関係をはぐくむための3つの視点を挙げたい。教師と児童一人一人の関係づくり（教師のよりよく生きようとする姿勢と児童を尊重し受容する態度）、児童相互のあたたかい関係づくり（相互の交流を深め、互いが伸び伸びと生活できる状況をつくる）、学級の受容的な雰囲気づくり（何でも話すことができ受け入れられる学級づくり）。以上のことを考慮しながら、望ましい人間関係をはぐくんできたい。本学級における望ましい人間関係を次のようにとらえた。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ・あたたかいふれあいのもてる関係 | ・学級のマナーやルールを守ろうとする関係 |
| ・互いのよさを認め合い協力し合える関係 | ・自分の思いや考えを表現できる関係 |

2 予防的・開発的カウンセリング

(1) 予防的・開発的カウンセリングについて

望ましい人間関係をはぐくむ手法に予防的・開発的カウンセリングがある。予防的カウンセリングとは、学級集団への不適応や問題行動を予防するものである。開発的カウンセリングとは、児童の発達課題（自分に自信をもつ、相手の立場を理解するなど）の解決を介して人間成長を促進するものである。その中に、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育がある。

(2) 構成的グループエンカウンターについて

構成的グループエンカウンターとは、集団活動の中で感情交流を図り、教師と児童、児童相互のあたたかな人間関係をはぐくむ手法である。大切なのは、人とのかかわる喜び、集団活動の喜びを、児童自身で体感できることである。「構成」とは、教師がある程度の枠（時間・人数・ルール）を設定することである。人とかかわり方が未熟な児童が多いため、「構成」してあげることで対人関係形成の促進につながり、また、心的外傷をふせぎやすくなる。ねらいに則して、6種類のエクササイズ（自己理解、他者理解、自己受容、自己主張、信頼体験、感受性の促進）がある。

教師の心構えとしては、カウンセリングマインドが基本である。具体的には、受容的な態度、共感的・支持的な態度、非評価的・非審判的な態度、自己開示的な態度などが挙げられる。

図1に「エクササイズの進め方の一例」を示す。構成的グループエンカウンターは、エクササイズとシェアリングの2本柱である。エクササイズに時間がかかる場合は、ウォーミングアップを省略してもかまわない。

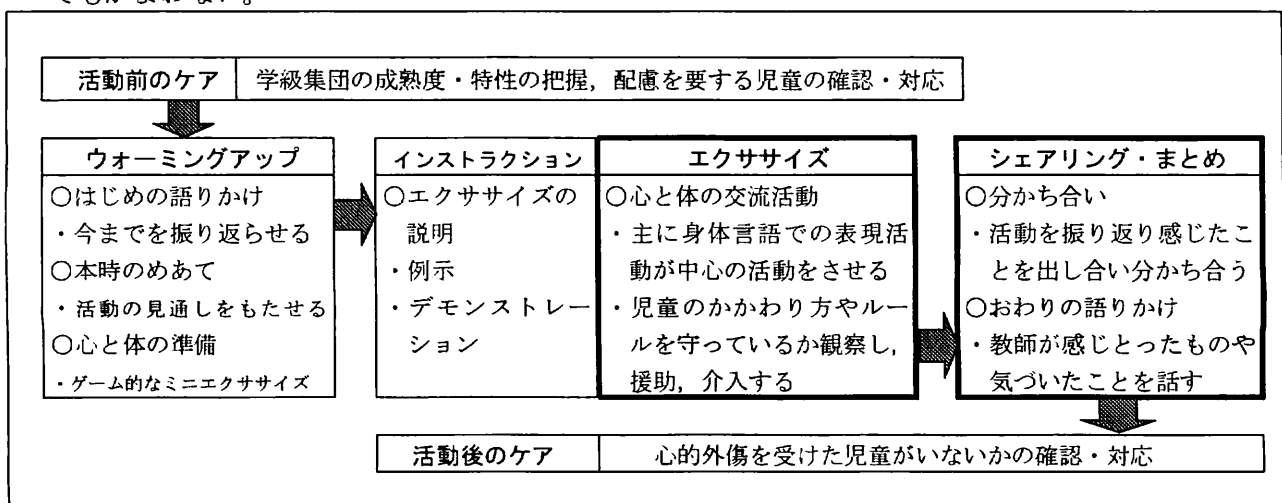


図1 エクササイズの進め方の一例

(3) ソーシャルスキル教育について

ソーシャルスキルとは、良好な人間関係をつくり、それを保つための知識と具体的な技能である。簡単にいえば、「人づきあいのコツ」である。しかし現在、児童は、遊びなどを通して自然にソーシャルスキルを身に付ける機会が減ってきており、学級がその主な場となっている。ソーシャルスキル教育では、対人関係のマナーや集団生活のルールなどを身に付けることができる。

図2に「ソーシャルスキルトレーニングの基本的な展開」を示す。課題の設定は、普段の生活場面で6割程度行われていて、意識すれば9割の児童が実行できるスキルを選ぶ。そうすることで優れたモデルが現れ、リハーサルの際に多くの児童が成功を体験できる。ソーシャルスキル教育は、成功体験を繰り返し味わうことが大切で、定着化につながる。図3は「12の基本ソーシャルスキル」である。学級の実態に応じて段階的に取り組むことが望ましい。

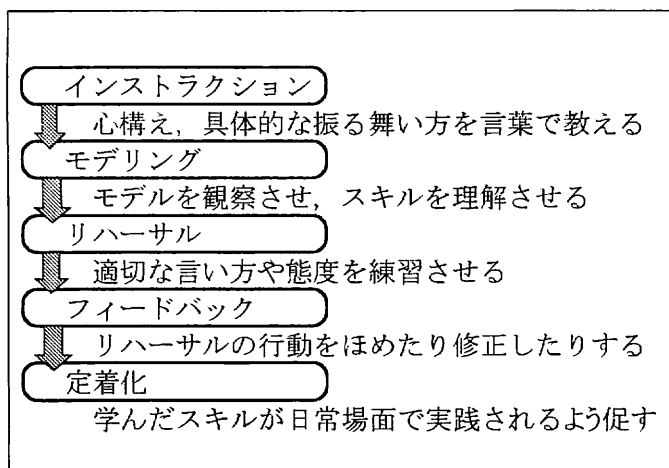


図2 ソーシャルスキルトレーニングの基本的な展開

初級	①あいさつ
	②自己紹介
	③上手な聴き方
	④質問する
中級	⑤仲間の誘い方
	⑥仲間の入り方
	⑦あたたかい言葉かけ
	⑧気持ちをわかって働きかける
上級	⑨やさしい頼み方
	⑩上手な断り方
	⑪自分を大切にする
	⑫トラブルの解決策を考える

具体的スキルから抽象的スキルへ

図3 12の基本ソーシャルスキル

3 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合

児童の望ましい人間関係をはぐくむためには、児童相互のあたたかい関係をはぐくみながら、児童一人一人の人間関係づくりの技能を高めることが重要になってくる。それと同時に、児童の所属する学級集団の育成を図らなければならない。なぜなら、人間関係は人との交流の中で培っていくものだからである。児童は一日の大半を学級集団の中で過ごすため、その学級が望ましい状態でなければ、学び合いの人間関係体験ができない。児童一人一人の高まりと学級集団の高まりが同時に成し得たときに、望ましい人間関係をはぐくまれるのである。構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合することによって、この2つを高めることができる。

(1) 統合のとらえ方

本研究において、統合するとは、構成的グループエンカウターのエクササイズの中に、ソーシャルスキル教育のトレーニングを、組み込んでいくことである。もともとのエクササイズは、一定のルールを守りながらあたたかな感情交流を図る集団活動である。その中に、集団活動を行う上で児童に身に付けさせたいソーシャルスキルのトレーニングを同時に行うのである。それぞれを単独で行うよりも、児童相互の心の交流（感動）と人間関係づくりの技能（スキル）が強く結び付き、定着につながるのである。

(2) 統合の有効性

統合したエクササイズは、児童相互のあたたかな感情交流を図りながら、かつ、ソーシャルスキルも高めることができる。「楽しかった」「よかった」という思いを児童自身の心と体で体感していくので、対人関係のマナーや集団生活のルールを学級集団に定着させやすい。

マナーやルールの定着とは、教師が教え守らせることではなく、児童自身や学級集団が必要性感じ守っていくことなのである。次にエクササイズの体験から定着までの流れを示す。

- ①エクササイズの内容が仲間と抵抗なくかかわれるルールだからできそう。やってみよう。
- ②ルールにそって活動するとなんだか楽しかった。仲間と一緒に活動する喜びを味わえたよ。
- ③授業や他の活動でも同じようなやり方をするのでわりやすいな。
- ④知らないうちに、仲間とのかかわりの中でエクササイズのルールを取り入れていたよ。

(3) 統合を通してはぐくむ教育力のある学級集団

学級集団の育成のポイントは、児童一人一人の学級生活の満足感を高めることである。統合の手だてを通して、児童一人一人が、多くの人間関係体験を積み重ね、教育力のある学級集団の育成が図られる。そして、望ましい人間関係がはぐくまれていくのである。図4にその流れを示す。

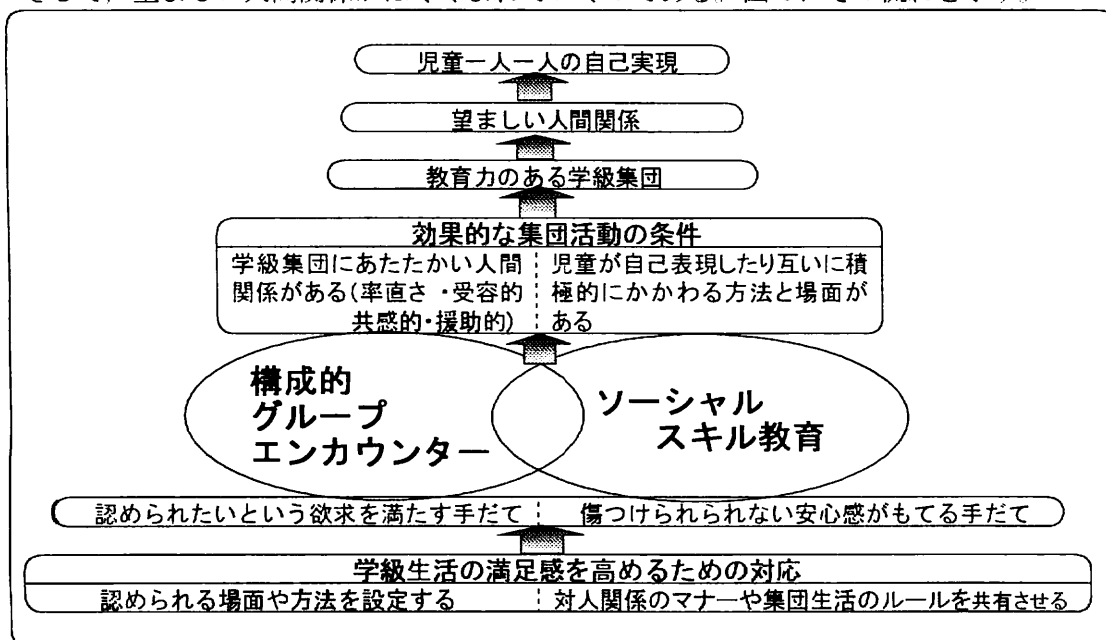


図4 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合の構造図

(4) 環境設定としての構成の仕方

- ①「現在地」を把握する・・・学級の児童の実態、学級集団の状態を把握する
- ②「目的地」を見つける・・・児童の発達を援助する上で必要な課題を見つける
- ③「方法」を考える・・・エクササイズの内容、展開の仕方、教師の力量を考える

(5) 構成を調節する7つのポイント

- ①取り組ませる集団の人数・・・2人組から学級集団全体へ
- ②所属するメンバーの構成・・・抵抗の少ないメンバー構成から違う考えを持つメンバーへと
- ③ルールやメンバーの役割構成度・・・強いものから最低限のマナーへ
- ④活動時間・・・10分くらいから1日を活用したものまで
- ⑤活動レベル・・・レクリエーション的なものから心を揺さぶるものへ
- ⑥活動内容・・・単純な活動内容からより高度なものへ
- ⑦想定される交流・行動レベル・・・役割を主体にした交流から感情を主体にした交流へ

(6) 望ましい人間関係をはぐくむエクササイズを選択の留意点

- ①ルールややり方が分かりやすく、説明が短時間でできるもの
- ②児童の実態や学級集団の状態によって構成を変えて繰り返しできるもの
- ③授業や集団活動でも活用・応用しやすく、日常生活に連続性をもたせられるもの
- ④児童になじみやすく、心をほぐす効果のあるゲーム的なものから、段階を追って内面的なものへと配列する

Ⅲ 授業実践

1 主題名 望ましい人間関係づくり

2 主題について

(1) 主題観

児童は本来、目に見えないたくましい自己成長力の芽をもっており、どの児童も現在及び将来における自己実現を願っている。自己実現を図るためには、教師と児童、児童相互の望ましい人間関係をはぐくみ、児童が集団の中で自己を生かすことが条件である。望ましい人間関係は集団の中で育つ。児童の学校生活での基盤は学級である。その学級集団の中で、互いのかかわり合いを通して、相手を理解し、相手とのかかわり合いの中で自分を確立していく。つまり、学級での人間関係は児童が自己の存在を実感しながら、自己実現を目指していく大切な場であるといえる。そのためには児童一人一人がかけがえのない一人の人間として大切にされ、認められている望ましい人間関係が前提となると考える。

本学級における望ましい人間関係をはぐくむことのできる児童とは、互いのよさを認め合いあたたかい人間関係がつかれる子であり、集団の中で、周りの人たちとかかわり合いながら自分らしさを表現できる子ととらえる。家庭や地域の教育力低下が叫ばれる今日、児童が一日の大半を過ごす学級は、人間関係をはぐくむ主な場となっている。そこで、学校生活の中で、意図的、計画的に集団学習体験や人間関係体験などの集団活動を実践し、互いのよさを認め合いあたたかい関係をつくり、さらに人間関係づくりの知識や具体的な技能を身に付け、望ましい人間関係をはぐくむことができるであろうと考え、本主題を選んだ。

(2) 児童観（省略）

(3) 指導観

集団活動を通して「自己理解」「他者理解」などのあたたかい人間関係づくりをねらう構成的グループエンカウンターと、「あいさつスキル」「上手な聴き方スキル」などの対人的・社会的な知識や技能を身に付けるソーシャルスキル教育を統合させた取り組みをしたい。

非承認群に属する児童の多い学級では、児童間のトラブルは少ないものの、児童間で自分の気持ちを表現できなかったり、学級全体で1つのことをやり遂げようとする意欲が弱い傾向にある。よって、エクササイズを選ぶ際は、児童になじみやすく、心をほぐす効果のあるものから配列する。そして、楽しい雰囲気の中で自分の個性や自己を表現させ、自己肯定感を高めながら交友関係を深められるように段階的に構成し実践していく。

学級活動・道徳の授業の展開においては、ウォーミングアップを工夫し、児童の学習意欲を高めるようにする。エクササイズやその他の説明や指示は、わかりやすく簡潔に述べる。授業のまとめには活動を振り返る場面を確実に確保し、「ふり返しシート」で、自己評価と感想を記入させる。それをもとに心的外傷を受けた児童はいないか確認し、対応する。また、児童の自己評価と感想（つぶやき）などを分析し、次時の授業につなげていきたい。さらに、日常化の工夫としては、学習内容の定着が図られるように、スキルの内容については、視覚に訴える資料を作成、掲示し、実践化につながるよう朝の会や帰りの会などで、関連性をもたせ繰り返し指導していきたい。

このように授業を意図的、計画的に実践し、また学習した内容が、日常生活の中で連続性をもたせ活用されるための具体的な手だてを講じ、定着を図っていきたい。

3 主題の指導目標

構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した集団活動を取り入れることにより、互いのよさを認め合うとともに、人間関係づくりに必要な知識や具体的な技能を効果的に身に付けさせ、望ましい人間関係をはぐくむ。

4 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した活動計画

時		題材名・主題名	エクササイズ名	ねらい（○領域 ☆エンカウンター ◆ ソーシャルスキル）
1	学活 6/16	みんな仲間だよ	なんでもバスケット	○マナーやルールを守りながら学級のみinnでひとつのゲームを楽しみ、仲間とあたたかい関係をつくる。 ☆他者理解を図る。 ◆相手の話をひやかさずに聴く。 ◆相手の聞こえるような声で話す。
2	道徳 6/18	あいさつの 大切さ 2－（１）礼儀	最高にうれしい あいさつリレー	○あいさつの仕方を身に付け、よいあいさつを体験することで、心地よさを味わい、相手の立場に立って進んであいさつができるようにする。 ☆自他理解を図る。 ◆だれにでもあいさつが言える。◆相手の目を見て言える。 ◆元気な声ではっきりとあいさつが言える。
3	学活 6/22	仲間のよさを見つげよう	仲間の いいとこさがし	○仲間のよさを見つけてほめてあげたり、仲間が見つけた自分のよさを知り、受け入れられることの喜びを味わい自分のよさを見つめ直すことができる。 ☆自他理解を図る。 ◆認めてくれた相手に「ありがとう」が言える。
4	道徳 6/25	本当の思いやり 2－（２） 思いやり	めざせ聴き方名人	○気持ちのよい聴き方を身に付け、よい聴き方を体験することで、心地よさを味わい、相手の立場に立っていい聴き方ができるようにする。 ☆他者理解を図る。 ◆相手に体を向けて聴く。◆相手を見て聴く。 ◆相手の話を最後まで聴く。
5	学活 6/30	協力することの 大切さ	聖徳太子ゲーム	○一人ではできないことも、グループで協力すればできることを体験しながら、互いの信頼感を高める。 ☆信頼体験を図る。 ◆相手の話を最後まで聴く。◆相手に聞こえるような声で話す。
6	学活 7/2 本時	学級のよさを見つげよう	5の3の いいとこさがし (ブレンストーミング)	○学級のよいところを見つけることができる。 ☆自他理解を図る。 ◆相手の話を最後まで聴く。◆相手に聞こえるような声で話す。
7	道徳 7/7	協力し合う心 2－（３） 信頼・友情	すごろくトーキング	○学級の友だち一人一人のことを知ろうという気持ちや積極的に自己開示をしようとする気持ちを持ち、相互の信頼関係を高めようとする。 ☆自他理解を図る。 ◆相手の話を最後まで聴く。◆みんなと同じくらい話をする。

5 本時の指導計画（6／7時）

(1) 題材名 学級のよさを見つげよう

(2) ねらい

①学級活動のねらい ○学級のよいところを見つけることができる。

②教育相談のねらい ☆自他理解を図る。◆相手の話を最後まで聴く。◆相手に聞こえるような声で話す。

(3) 本時の授業仮説

「5の3のいいとこさがし」のブレンストーミングを通して、学級のよさに気づくことができ、また自分の考えを伝えたり相手の考えを認めたりすることで、自他理解が深まるであろう。

(4) 準備資料

- ・ ルールの短冊（掲示用）
- ・ クラスのいいとこさがしの視点や例題の表（掲示用）
- ・ クラスのいいとこカード
- ・ 発表会の進め方シート（児童用）
- ・ ふり返りシート

(5) 本時の展開

◎教師の支援 【板書・教具】

	学 習 活 動	◇教師の指示・発問 ★児童の 反応・行動	評価 ○領域 ☆エンカウンター ◆ソーシャルスキル
導入 2分	1 前時の学習を振り返る。	◇「一人ではできないことも仲間と力を合わせればできる。」ということ学習しましたね。 ★聖徳太子ゲーム楽しかったよ。	◎個人の内面の高まりと行動の変容について認めてあげ、学習の深まりを実感させる。
展開 ① 3分	インストラクション 2 本時のめあてを確認する。 3 「ブレインストーミング」の進め方とルールを確認する。	◇めあては2つあります。 ★5の3のいいところをみつけよう。 ★自分の考えを伝え、相手の考えを認めよう。 ◇今日は「ブレインストーミング」をします。自分の考えをグループのみんなに話し、他の人の考えも認める活動です。 ◇あるテーマについて自分が考えたことをどんどん出してもらいます。相手を傷つけることや気にしていることは言わないこと。自分と違う考えでも「うん、うん」と聞くこと。時間内にたくさん見つけて下さい。	【めあて】・・・板書 ◎板書き、本時のめあてを理解させる。 【ルールの短冊】・・・掲示 ◎ルールを書いたカードを提示しておき、確認できるようにしておく。 ◎ルールを読み上げさせ理解できたか確認しながら進める。
展開 ② 30分	エクササイズ 4 ブレインストーミングのテーマを確認する。 5 「5の3のいいところさがし」のブレインストーミングをする。 6 各グループの考えを発表し合う。	◇今日のテーマは、「5の3のいいところさがし」です。 ◇1分間、声に出さずに自分の頭の中で考えてください。 ◇5分間で自分の考えを全ていいところカードに書いて下さい。 ◇グループのリーダーは「5の3のいいところ発表会」を進めて下さい。 ◇グループ全員の発表が終わったら、全体発表会の準備をして下さい。 ◇はいそこまでです。各グループ順に発表して下さい。 ★元気のいいクラス ★大きな声で歌えるクラス ★しっかり者の多いクラス ◇クラスでいくつ見つけることができましたか。	◎机を合わせグループをつくらせる。 【視点や例題の表】・・・掲示 ◎視点や例題を挙げた皆さんの考えが出やすいようにする。 【いいところカード】・・・配布 ◎リーダーを中心にグループ発表会がスムーズにできるよう机間指導し、必要に応じ介入する。 ◆相手に聞こえる声で話せたか。 ☆自分の考えが話せたか。 (自己理解) ◆相手の話を最後まで聴くことができたか。 ☆相手の考えを認めることができたか。(他者理解) ◎全部のグループが賞賛されるよう補足し拍手を贈らせる。 ◎みんなで協力してできたことを賞賛する。
まとめ 10分	シェアリング 7 今日の授業を振り返る。 8 今日の学習のまとめをする。	◇1分間、各グループで今日の活動をふり返ってみましょう。 ◇今日の活動をふり返りシートに記録しましょう。 ◇「5の3のいいところさがし」の活動を通して感じたことを発表して下さい。 ★クラスのいいところがいっぱいみつかった。 ★いいところを増やしたい。 ★自分の考えが認められてうれしかった。 ◇みなさん5の3のいいところをたくさん見つけることができましたね。素晴らしいです。5の3のいいところを知ることができて幸せな気持ちでいっぱいです。これから学校・家庭にもいいところさがしを広げていきましょう。	【ふり返りシート】 ○クラスのいいところを見つけたことができたか。 ☆自他理解が深まったか。 ◎児童の進歩の側面を強調したフィードバックを心掛ける。 ◎定着化を図る。

(6) 授業の分析と考察

＜本時の授業仮説＞

「5の3のいいとこさがし」のブレーストーミングを通して、学級のよさに気づくことができ、また自分の考えを伝えたり相手の考えを認めたりすることで、自他理解が深まるであろう。

図5は本時のふり返りである。学級のよさに気づけたかに関しては、「クラスのよさに気づいたか」について97%の肯定的な評価であった。また、自他理解が図れたかに関しては、「自分の考えを伝えられたか」について88%、「相手の考えを認められたか」についてクラスの全員が肯定的な評価をしている。以上のことから、「5の3のいいとこさがし」のブレーストーミングの集団活動を通して、学級のよさに気づかせることができ互いの考えを尊重する認め合いが図られ、自他理解が深まったといえる。

また、児童の感想の中には、「5の3には、こんなにいいところがあったんだなあ。」「いろいろな考えがあってすごいなあ。」「私が見つけた5の3のいいところをみんなに言えてよかった。」「みんなの考えを聞いて、そうだこういうのも書けばよかった！と思った。」などがあった。

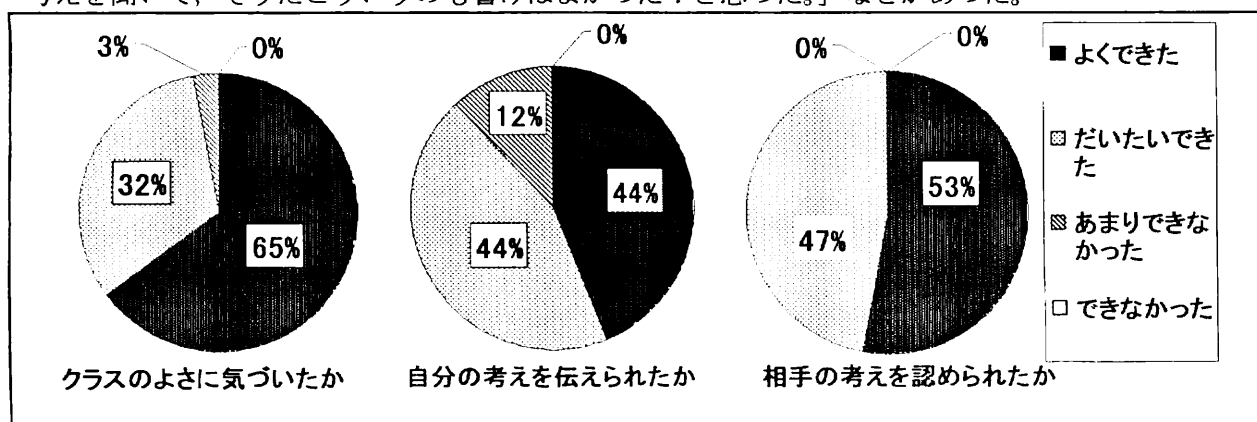


図5 本時の児童の自己評価

IV 研究全体の考察

＜研究仮説＞

学校生活の中で、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を、意図的、計画的に実践することによって、児童は互いのよさを認め合い、人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付き、望ましい人間関係をはぐくむことができるであろう。

「望ましい人間関係をはぐくむ支援の在り方」として、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した授業実践が有効であったかどうかについて、Q-Uアンケートの結果、ソーシャルスキル尺度の結果、児童の自己評価、児童の授業後の感想をもとに検証を行う。

1 互いのよさを認め合えたか

児童の実態から、学級全体で1つのことをやり遂げようとする意欲が弱い傾向にあり、協力的な雰囲気がありませんと感じている児童が多かった。児童の学級に対する所属感の高まりや学級内での仲間とのかかわりの変容から、互いのよさの認め合いについて検証した。

図6の「協力して活動ができましたか」について、97%の児童が肯定的な評価をしている。また、次の児童の感想から、学級の仲間を受容する態度が育ってきていることがうかがえる。児童は「よささがし」の集団活動を通して、互いのよさを認め合うことができたといえる。

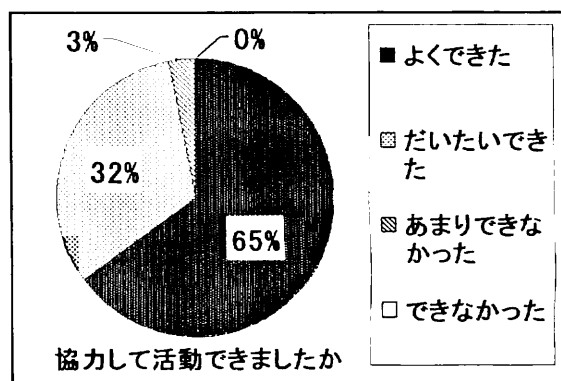


図6 児童の自己評価

- *また「何でもバスケット」をやって、みんなともっと仲よくなりたい。
- *自分では気づけなかったいいところを、友だちにわかってもらってうれしかった。
- *これからも友だちのよさをみつけていきたい。
- *「すごろくトーキング」は友だちの新しい発見ができるのでまたやりたい。
- *「すごろくトーキング」はみんなで協力し合ってとても楽しかった。



学級のよいところを見つけ喜ぶ児童



互いのよさを認め合うグループ発表会

2 人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付いたか

図7はソーシャルスキル尺度の検査結果をまとめたものである。実施前の「配慮のスキル」「かかわりのスキル」とともに「D やや低い」のグループに位置しており、望ましい人間関係が形成されにくい状況にあった。児童のアンケートにも、「けじめのあるクラスにしたい」「人の話をきちんと聞けるクラスにしたい」などマナーやルールの向上を求める声が多かった。

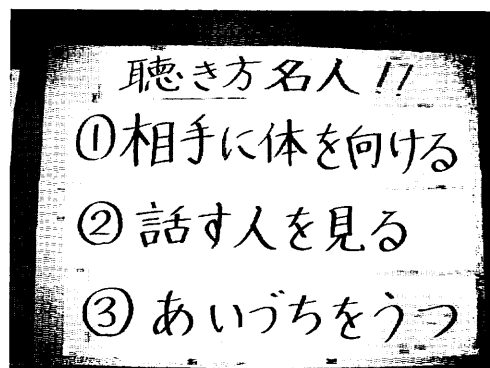
実施後は、「配慮のスキル」「かかわりのスキル」とともに「C 平均的」まで改善された。また、次の児童の感想から、対人関係のマナーや集団生活のルール、友だちとのかかわりや関係を維持するなどの人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付いてきたといえる。

- *うれしいあいさつのやり方がわかった。
- *あいさつは大事だと思ったのでいっぱいしたい。
- *あいさつでいろんな人と仲良くなれるんだな。
- *相手がちゃんと聞いてくれたのでうれしかった。
- *3つルールを守って「聴き方名人」になりたいです。
- *友だちが話しているときにちゃんと聞きたい。
- *マナーやルールを守るととっても楽しい。
- *ちゃんと聞いてもらったので自分も聞いてあげようと思った。

(得点は学級の平均点)		
	配慮の スキル得点	かかわりの スキル得点
Aとても良好	67～	43～
B良好	63～66	40～42
C平均的 ↑	55～62	33～39
Dやや低い ↑	50～54	30～32
Eかなり低い	～49	～29

本学級の得点		
事前(5月)	52	32
事後(7月)	57	36

図7 ソーシャルスキル尺度の結果



ソーシャルスキルの掲示物

3 望ましい人間関係をはぐくむことができたか

図8と図9は検証授業の実施前と実施後に行ったQ-Uアンケートの検査結果をまとめたものである。

図8の学級満足度尺度では、実施前は、非承認群に属する児童と学級生活不満足群に属する児童が多かったが、実施後は減少し学級生活満足群の人数が倍増した。しかし考慮しなければならないのは、侵害行為認知群が上昇していることである。それらの児童への積極的な働きかけが必要である。

図9の学校生活意欲プロフィールの実施前は、友達関係と学習意欲の項目は、ほぼ全国平均値であったが、学級の雰囲気は、全国平均を下回っていた。実施後は、どの項目に関しても全国平均を上回り、学級の雰囲気に関しては、7.8から9.4と特に高まった。

以上の結果から、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合させた取り組みを実践することで、学級内で認め合いとソーシャルスキルの定着が図られ、児童は、生活への意欲や学級での満足感を以前よりも感じるようになってきたようだ。その結果として本学級は、児童一人一の望ましい人間関係をはぐくまれ、望ましい人間関係をはぐくむことのできる学級へと変容しつつある。

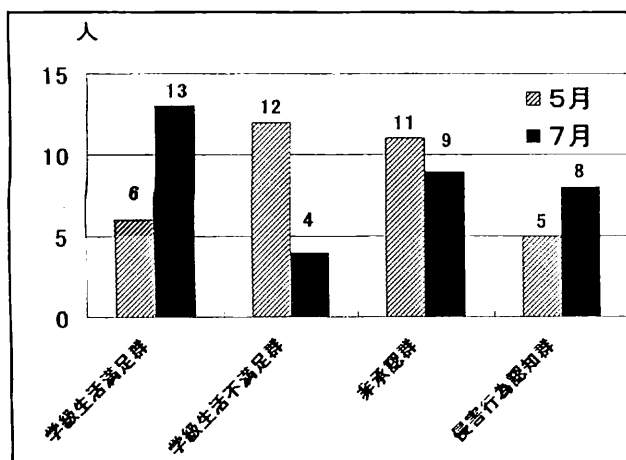


図8 学級満足度尺度

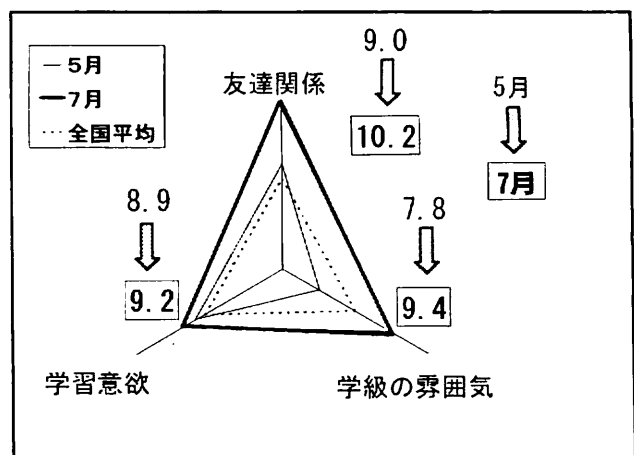


図9 学校生活意欲プロフィール

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を、意図的、計画的に行うことで、互いのよさを認め合い、人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付き、望ましい人間関係をはぐくむことができた。
- (2) 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援の仕方がわかった。
- (3) 実施前のQ-Uアンケートやソーシャルスキル尺度の結果から、学級の実態を把握し、児童一人一の特性をつかみ児童理解を図ることができた。

2 今後の課題

- (1) 個別指導を要する児童への援助の工夫
- (2) 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した年間計画の作成と継続的な取り組み

<主な参考文献>

國分康孝監修	『エンカウンターで学級が変わる 小学校編』	図書文化 1996年
國分康孝監修	『ソーシャルスキルで子どもが変わる 小学校編』	図書文化 1999年
河村茂雄編著	『グループ体験による学級育成プログラム』	図書文化 2001年
國分康孝監修	『エンカウンターで変わるショートエクササイズ集』	図書文化 1999年